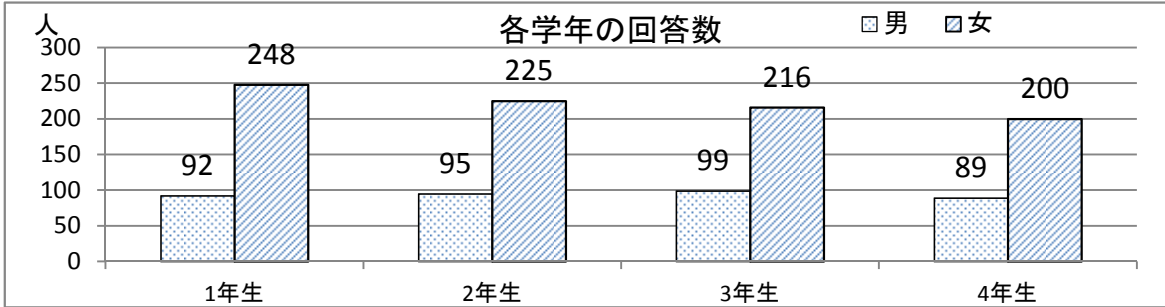


学内喫煙アンケート調査(第4回)

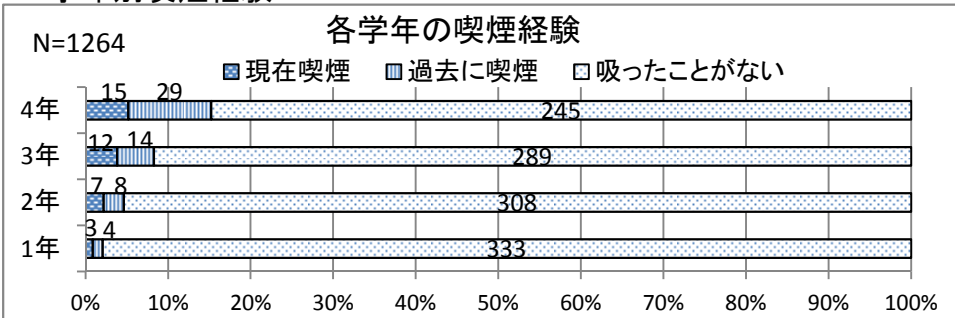
本学では、平成26年より健康増進のために「禁煙」の啓発・支援を進めてきました。その中で、初年度より喫煙アンケートを実施し、今年で4年目を迎えます。1年目は全学生・職員、2年目は1年生、3年目は1・2年、4年目は全学生を対象に実施してきました。また、禁煙対策として平成26年と平成27年に喫煙場所の縮小を行い、平成28年7月から敷地内禁煙となりました。

今回、4月に実施したアンケートの結果をまとめ、一つの区切りにしたいと思います。

1. 学年別回答数

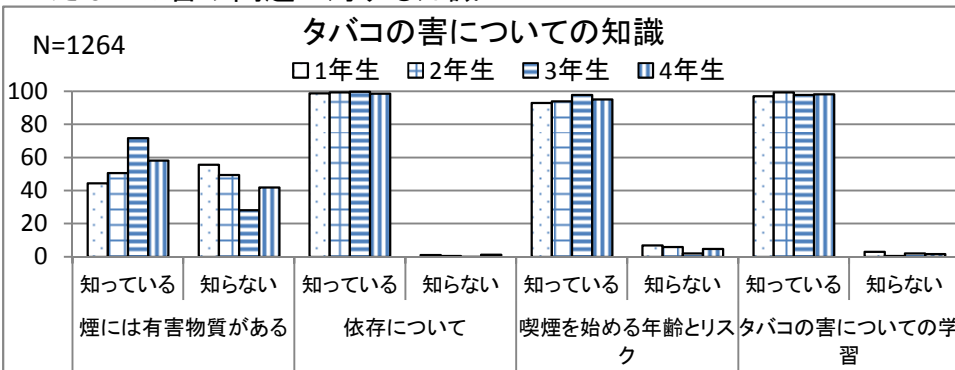


2. 学年別喫煙経験



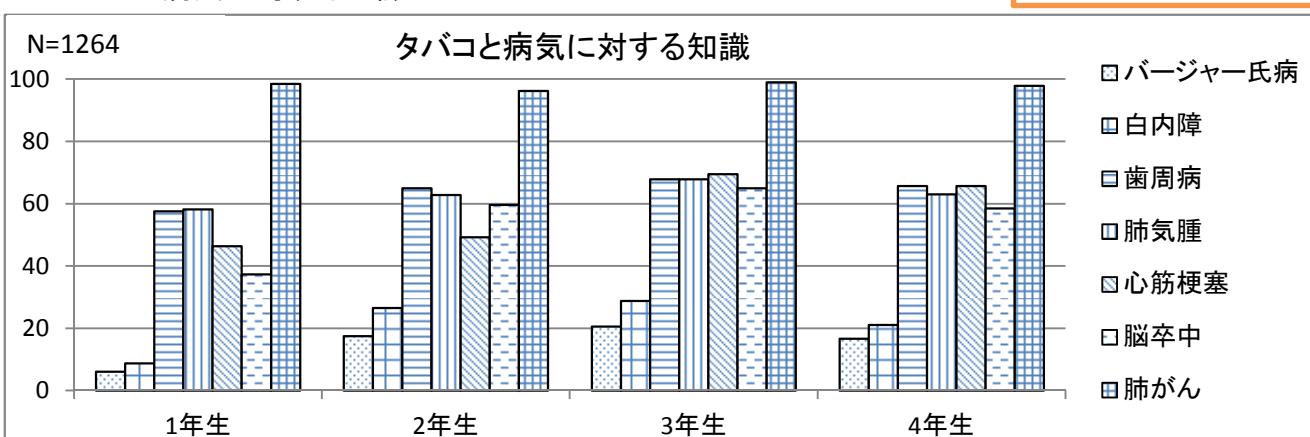
喫煙者は学年が上がるごとに増えている。しかし、禁煙した人も多く、喫煙者の56.7%は今後禁煙をしたいと思っている。
昨年7月から敷地内全面禁煙になった事も、禁煙に影響を及ぼしていると思われる。

3. たばこの害や問題に対する知識

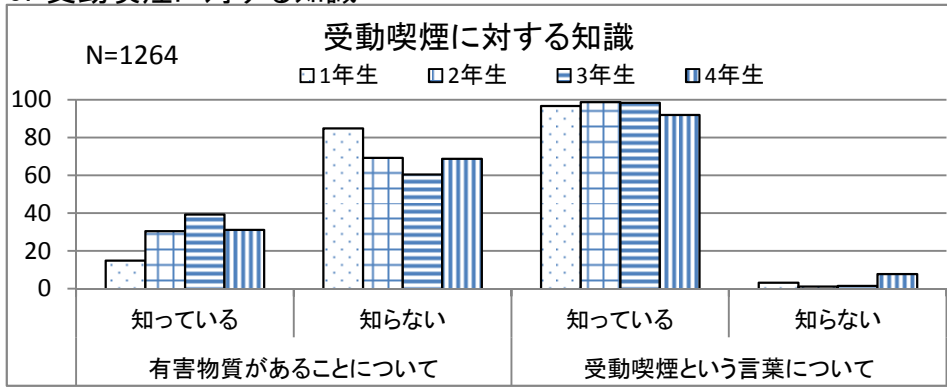


タバコの害について学習している人がほとんどで、依存・喫煙と年齢との関係についても知っている。ただ、煙草の煙には有害物質がたくさん含まれている事を知っているのは約半数であった。
3年生には1年時よりタバコの害について啓発を行っており、他の学年に比べ知識のある人が多い傾向にあった。

4. たばこと病気に対する知識

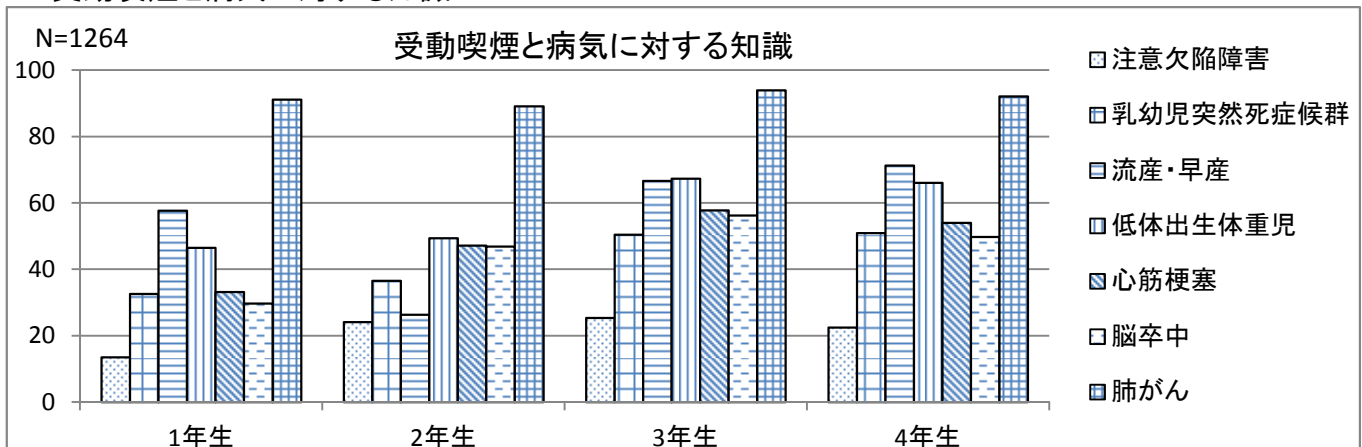


5. 受動喫煙に対する知識

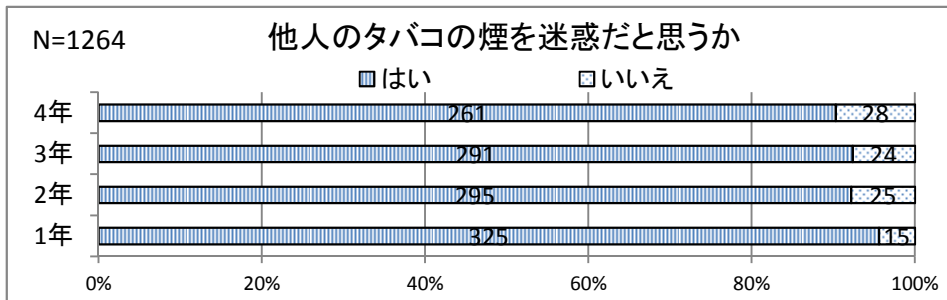
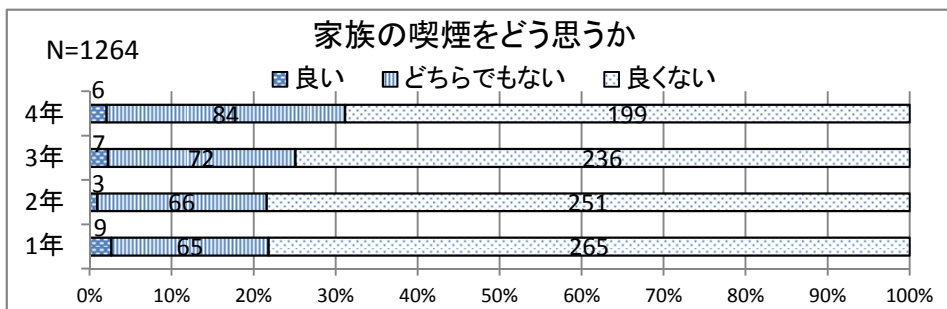
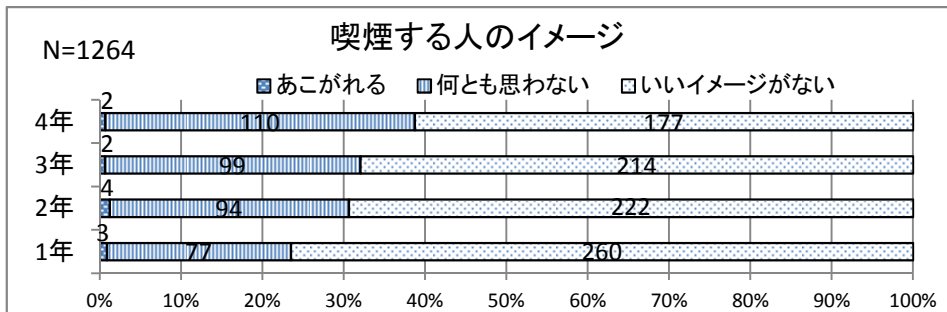


受動喫煙ということばはほとんどの人が知っていた。受動喫煙が及ぼす病気について、肺癌以外では胎児に影響があることを知っている人の割合は多かった。また、学年が上がるにつれ知識がある人は増えている。この3年間の取り組みの効果だったと思われる。

6. 受動喫煙と病気に対する知識



7. 喫煙に関する意識



喫煙する人のイメージ、家族の喫煙に対する思い、どの項目についても学年が上がるにつれ無関心の人が増えている。他人のタバコの煙を迷惑と思う人がほとんどであるが、迷惑と思わない人もわずかではあるが増えている。本学は昨年7月(平成28年)から敷地内全面禁煙になっている。このことに関して、2・3・4年生の約7~9%程度がどちらでもない、反対と回答している。他の機関の生活者調査でも、20代の全面禁煙に「賛成」の割合が他の年代より低い傾向がみられるとの報告もあり、同じような傾向があるといえる。

(8) 本学は敷地内禁煙ですが、このことについてあなたはどのように思いますか。

